

「わかる日本語」研究会を問う

TNVNはボランティア日本語教室に参加する学習者へのアンケートから85%は「情報は分かりやすい日本語で書いてほしい」との回答を得ました。この観点から「わかる日本語」研究会を2010年11月に発足しました。

東京都国際交流委員会のHPに掲載されている、「外国人のための生活ガイド」から「転ばぬ先の知恵」「緊急災害時の対応」を原材に、「わかる日本語」にする作業活動を続け、その成果を冊子にしました。(TNVNのHPに掲載しています)

本冊子をTNVNの会員団体(84団体)をはじめ関係団体に配布しました。

そのうち会員団体宛てに、「わかる日本語」についてのアンケートを61団体にメールで発信し、20団体から大変貴重なご回答・ご意見を頂きました。本稿では紙面の都合で、その内の一部を掲載します。

(梶村 勝利)

「やさしい日本語」の動きについて

「やさしい日本語」で発信された情報文について

意見・感想

- ❖「まさかのとき」の役に立つのは明らかですから、今後も関心を持っていきたい。
- ❖街角の標識など、本来の語句とやさしい日本語を併記してあるものは、外国人だけでなく、高齢者、障害者、子どもにもわかりやすい。

TNVN Network News の記事から

TNVN Network Newsで「わかる日本語」研究会の状況や「やさしい日本語」について、No.71からNo.79まで8回掲載してきました。

(TNVN Network NewsはTNVNのHPでご覧下さい)

役に立った記事、関心を持った記事についての意見・感想から。

◎「やさしい日本語」についての記事から

- ・No.75 「やさしい日本語」の定着に欠かせない科学的な視点／森 篤嗣氏寄稿

意見・感想

- ❖短い文に対する考察に興味を持ちました。

- ・No.77 「やさしい日本語」の本質とその必要性／庵 功雄氏寄稿

意見・感想

- ❖やさしい日本語の実用性について書かれている点、著者の考えがはっきりしている点、実際の経験談でわかりやすい。
- ❖人材移動のグローバル化に対して外国人側に日本語習得を求めるだけで

なく、日本人側も相手の日本語を理解するよう努力すべきという主張は例えば現在の政治レベルでの各国との関係にも言える、基本的なことを感じました。

●情報伝達の面から

・No.72 情報伝達における通訳・翻訳中野の場合／中山真理子中野区国際交流協会・専門員

意見・感想

- ❖「選ばれた一部の人にしか翻訳できない、理解出来ない訳文ではなく、多くの人が情報伝達者になれる端的な表現」→これこそわかる日本語だと思います。
- ・No.74 国際化市民フォーラムに参加して行政情報、生活情報を「わかる日本語」で!

意見・感想

- ❖内容の分かり易さはもちろん大切ですが、伝達手段・方法の重要性を認識しました。

・No.76 「わかる日本語」研究会を始めて1年。研究会メンバーの感想と意見

意見・感想

- ❖長い文を短くすると、情報がカットされるが、その長い文の要点は何か?

●「わかる日本語」にリライト

・No.77 「わかる日本語」研究会から: 「わかる日本語」にリライトしました。

意見・感想

- ❖必要性は以前から感じておりました。

・No.79 「わかる日本語」研究会に参加して…初めてのリライト経験

意見・感想

- ❖「わかる日本語にしたから大丈夫ということではありません」…この通りだと思います。「わかる日本語」にしなければ分からない人には、誰がこの内容をさらに噛み砕き、いざという時に行動できるようにするかです。我々ボラン

ティアはその隙間を多少埋めるという立場だと思います。

- ❖実際のリライトもみて、そうかと思うところと、これで分かるのかなと思うところがある。実際にやってみたら改善していく以外にないのだろうが。
- ❖原文から必要以上の表現を限りなく削ぎ落とす作業を行うなかで、メンバーのみなさんのご苦勞を感じることができました。

●記事を通して「わかる日本語」についての関心を持たれた理由

意見・感想

- ❖日ごろ、日本人ですら分かりにくい行政文書が多いと感じています。
- ❖日本語がよく分からない人にも、重要な情報が伝わるように工夫されています。
- ❖これまで主に、進学する人のための日本語指導、日本人に劣らない“きれいな日本語”の指導に当たってきたが、情報伝達ツールとしての日本語の必要性にあらためて気付かされた。
- ❖日本語では、相手の立場に配慮して否定的に尋ねたりするが、言いたいことをはっきり伝える必要性を感じました。
- ❖初級前半の学習者対応の勉強にもなります。冊子の中から災害の様な項目は学習時間内で取り上げたい(教えておいてあげたい)と考えています。
- ❖普段使っているテキストが市販のものが多く、どうしても日本語学校などで使用しているものと多分同様なものだと思う。もっと普段着で伝えられるプロセスは無いかと思っていた。

「わかる日本語」研究会報告冊子について

日本語ボランティア活動の中で学習者から行政情報文や学校等からの文章について、本人に分かるよう説明する機

会が多いと思いますが、本冊子でまとめた言い方・リライトの方法について、ご意見をお願いします。

意見・感想

- ❖用語、表記文字の選択、しぼり込みもさることながら、『情報のしぼりこみ』はとでも勉強になりました。
- ❖語彙をどこまで元の形で残すのかは、検討の必要な事項かと思います。
- ❖難しい語彙については、国際免許のように()つきで英語をつけた方が、理解が早いと思います。
- ❖「です」「ます」のシンプルな文で、普通の文のみならず時には命令文、時には依頼文、時には禁止の文にとそれぞれの場面に適応することには驚きです。
- ❖新入学習者さんのクラス分けのインタビューで、会の活動などの説明に採用させていただきましたところ、なるほど、よくわかっていただきました。
- ❖地震・火事・急病など本当の緊急事態にしぼって、簡潔・図解式・誰でもわかるというのを作成していただけるとありがたいです。
- ❖吹き出しつきのマンガイラストなどで(人に訴える緊急のことば)
- ❖現実の支援の中で、学習者に行政情報をわかりやすく説明する機会はありませんが、もし求められた場合、大いに参考になると思います。

最後に 発信の立場から

意見・感想

- ❖リライト文は伝えたいことを端的に、また、分かち書きで表現されていますので、日本語支援が必要な方にとっては理解しやすいと思います。ただし、これまで広報紙等により情報発信するには、原文(右側)のような表現をしていますので、リライト文の表現には距離感を感じてしまいます。

考えてみませんか あなたは日本語ボランティア? それとも日本語教師?

寄稿

ビバ日本語教室・元日本語教師 林川 玲子

● 隣人として

TNVNが活動をスタートした頃(1993~94)、日本語ボランティアは、日本語教育専門家や日本語学校から、「アマチュアが日本語を教えるなんてとんでもない」と批判されました。

それで、TNVN交流会で、「日本語ボランティア」の役割を自ら認識しよう、また、社会に日本語ボランティアを正しく認識してもらおうと、ディベート「日本語ボランティア対日本語教師」を実施しました。

その結果、「TNVNネットワークニュース9号」(1996年4月8日発行)から「TNVNとは?」という欄を設け(現在は8ページに掲載)、そこに「～言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。」と謳うことにしました。

それから15年以上経った今、日本語ボランティアが先生気分になっているという声がかときき聞こえる一方、日本語を上手に教えられないと自信をなくしているボランティアも見られます。

● 日本語ボランティア養成講座

これは、日本語ボランティア自身の問題だけでなく、日本語ボランティアに対する世間の認識が高まったことが、本来は喜ぶべきことながら、日本語ボランティアの活動に迷いを生じさせているようです。区市が外国籍住民対応のために、講座を開いて日本語ボランティアを養成し、その力を借りようとするのはけっして悪いことではないでしょう。

問題は、短期間の講座で速成日本語教師を作ろうとすることです。そして、日本語が話せる話せないにかかわらず支援させようとするのです。日本に来たばかりの「こんにちは」もわからない外国人に日本語を教えるためには、経験も時間も必要です。

日本語力がゼロに近い人に日本語を教えるためには、プロの力を借りるべきです。そして、短

期間に、集中的に日本語教育が受けられる場を作るべきです。3年以上の仕事経験を持つ日本語教師なら3ヶ月で、とりあえず日本で生活できるだけの日本語を教えられます。なお、プロというのは、生徒の評価をしますが、先生自身の評価もされなければなりません。

その、とりあえずの日本語を習得した外国人がボランティア日本語教室に参加したとき、初めて日本語ボランティアは本来の役目が果たせるのです。

● やさしい日本語

区や市の情報を「やさしい日本語」(TNVNでは「わかる日本語」)で書こうという考え方が高まってきている昨今、ことにプロによる入門、初級の集中日本語講座の必要性を痛感しています。日本に来たばかりの日本語も日本事情にも疎い人たちが、たとえボランティア日本語教室に参加したとしても、「やさしい日本語」情報が読めるのは1年以上後になるでしょう。そして、その頃には、区市の情報をわざわざ読まなくても、不自由ながら何とか生活できるようになってしまっているのではないのでしょうか。

改めて日本語ボランティアの
役目を考えてみませんか。

| | 日本語ボランティア | 日本語教師 |
|-------|---|---|
| 立場 | 親切的隣人(日本生活の水先案内人) | 教育者 |
| 対象 | 学習者(日本語を自主学習する大人) | 生徒(就学生、留学生、社会人等) |
| 相手の目的 | 日本で快適な生活をするため | 進学、単位習得、仕事のため |
| 役割 | ①日本語自主学習のお手伝い(対等)学習者の希望に添う ②地域の情報・習慣・その他の伝達 ③日本語での話し相手 ④相談相手 | 日本語指導 先生が主導権を持つ(上下関係) 授業計画にそって教える |
| 使用言語 | 通じる日本語(役に立つ道具として) | 正しい日本語 |
| クラス | 学習の場、交流の場、居場所 | 教育の場 |
| 対応時間 | 週に1日(1.5時間~2時間) | 週に2日以上(4時間以上) |
| 評価 | 支援者、学習者とも評価されない | 生徒も先生も評価される |
| 報酬 | なし | あり |

*子ども日本語支援は、ここで言う日本語ボランティアの活動とは異なります。

西東京市多文化共生センター (NIMIC)



秋晴れの日、西武線田無駅から3分ほどのビルにある西東京市多文化共生センター事務局をお訪ねし、木下伸子さん(副代表理事)と久保芳昭さん(理事)にお話をうかがいました。

営し、現在160人余りの会員がそれぞれ種々の活動に参加しています。

また、西東京市からの事務所、機材などの提供、市との企画提携事業への補助金などが、NIMICの活動を一般市民にも広げ、日本人も外国人も共に市民として地域社会に参画する一助となっています。

市との提携事業では、11月に行われる「市民まつり」で実施する「世界地図めぐり」が子どもにも大人にも好評です。また小学校の総合学習の時間には「地域の外国人と仲良くしよう」と外国の方々を派遣、子どもたちと交流しています。その他、留学生が市内の家庭を訪問するホームビジット、日本語ボランティアのための講座などを実施しています。

大好評だった「スピーチコンテスト」

2011年、西東京市誕生10周年記念協賛事業としてスタートした「日本語スピーチコンテスト」は、実行委員を市民から募り、市内の企業からも協力を得て、まさに地域ぐるみの事業となっています。今年も10月14日にコール田無で開催されました。市内在住、在学の子供達のためにNIMICが開いている「子ども日本語教室」から3人の子ども

が、「子どもたちからのメッセージ」として将来の夢や夏休みの出来事を語りました。その後、9人の外国の方々、日本語の壁を超える努力、お国の紹介、日本について思ったことなど生き生きと語り、皆さんのすばらしいスピーチに市長賞始めいろいろな賞が贈られました。

NIMIC独自の活動

外国の方々のために、通訳のついた相談窓口を開設、また、予約により通訳を派遣します。長く日本に住み、日本語に慣れたはずの外国人も、困ったことがあれば「やっぱり母語で」対応してもらいたいものです。

このようなNIMICの活動を広く市民の方々には知らせるために、広報紙「多文化のわ」を年4回発行しています。さまざまなイベントを楽しい写真と共に掲載、市内に住む外国の方、外国人の店なども紹介されます。市民はNIMICを通して自然に世界とつながっていきます。

文化担当理事の楊さんは、二胡の先生です。演奏会や二胡の体験講座など、音楽を通して多文化理解に貢献しています。事務局前にある楊さんのレッスン室から聞こえてくる二胡の心安らぐ音に送られて帰途につきました。

(取材・文 山本英子、小川伶子、林川玲子)

生い立ちと理念

NPO法人西東京市多文化共生センター(NIMIC)は、2004年、当時の市長の依頼により開かれた「国際交流組織設立検討懇談会」をルーツとして、2006年に活動団体を立ち上げ、2008年に特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受け、活動を続けています。

西東京市には、約70カ国3,600人ぐらいの外国人が地域の皆さんと共に暮らしています。NIMICは、異なる文化背景を持つ人々が「お互いの違い」を認め合い、平等な「多文化共生社会」を築いていくための支援を活動の理念としています。

また、外国人支援にとどまらず、「外国人にとって住みやすい社会は、子どもやお年寄り、障害を持つ人など、みんなにとっても住みやすい社会」と考え、地域の市民活動の育成も図っています。

組織と活動

NIMICは、会員制で、代表理事佐々木瑞枝さんを含む役員10人の方々がボランティアとしてセンターを運

わたしの国イラン

レザイ・アリレザ／イラン

小平日本語ボランティアの会（小平市）

私は、イラン出身のレザイ・アリレザと申します。日本に来て19年になります。今日ここでイランのことを少しご紹介したいと思います。

私が日本に来て日本人の方と話をするとときに、「イランは暑い国ですか」と、砂漠をイメージして、聞かれることがよくあります。またイランは、イラクやサウジアラビアのようなアラブ諸国だと誤解している方も多くいます。イランは7000年の古い歴史をもった国で、みなさんにはベルシャといった方がわかりやすいかもしれません。

言葉はベルシャ語を話します。アラビア語とは、だいたい同じ文字を使っていますが、日本語と中国語のように全く違う言葉です。中東というイメージでひとつに、考える方が多いと思いますが、アラブ人とベルシャ人は別な民族であると是非今日覚えて帰っていただきたいと思います。

またベルシャというと、みなさんが知っているのは、ベルシャ絨毯ではないかと思えます。イランでは、どの家庭でも絨毯が敷かれていて、家にあがるときは日本のように靴をぬいであがります。

最近では食事をするとときに、テーブルも使われていますが、今でもベルシャ絨毯の上で食事をしたり、紅茶を飲んだりします。絨毯で食事をすると、ソフレというクロス（布）を敷き、その上で食事をします。このソフレというのは、とても便利で、大きなソフレがあれば、たくさんのお客さんが来ても全員で食事をすることができるのです。

主食は、朝はパン、昼と夜はお米を食べる家庭が多いようです。お米と一緒に食べるおか

ずは、肉と豆、野菜を煮込み、トマトペーストで味付けしたシチューのようなものが多いです。

イランは日本の約4倍の国土を持っています。人口は日本の半分ほどです。南の地域は砂漠があり夏はとても暑く、冬でも暖かく過ごすことができます。北の地域では冬は雪が降るほど寒く、夏は涼しく過ごせます。

私の生まれた首都テヘランでは日本のような四季があり、冬は東京よりも寒い時もあるほどです。テヘランの北側には、アルボルズ山脈があり、その最高峰であるダマバンド山（5671 m）は富士山によく似ています。

みなさんザクロという果物をご存じだと思います。ザクロはイラン原産で、その名前はイラン西部にあるザクロ山脈からきているようです。

イラン革命以来、イスラムの教えを基に作られた法律によって、お酒や豚肉を口にすることは禁じられ、女性は髪の毛を隠し、露出の多い服装も禁じられています。でもみなさんがおそろく感じられるほど、国民はそれらのことを厳しく感じていないようです。

イランにはペルセポリスのような古い遺跡もあり、シーラーズやイスファハーンのような、古い町もあります。ぜひ、機会があればイランを訪れてみてください。

簡単ではありましたが、ここでイランのことをご紹介できてうれしく思います。

ありがとうございました。

（小平市中央公民館でのスピーチより）



■学習者は異文化の隣人です

光が丘ことばの会 (練馬区)

小野 寿子

私たちの日本語教室は2006年に図書館を主な活動拠点として発足しました。しばらくは学習者が増え続け、ボランティアが足りずに四苦八苦しましたが、大震災で学習者は激減しました。現在ボランティアは8名ですが、お声をかけると助けてくださる方が何人かいます。

教室では「みんなの日本語」「ペアで学ぼういろいろな言葉」などを教科書にして学習していますが、ほかにチラシ、絵本、新聞記事なども取り込むほか、季節の行事、地元のイベントなど折々に紹介しています。私たちにとって、学習者は異文化の隣人ですから、学習者に必要な情報を速やかに提供するのは勿論、区主催の防災講座

や、協賛の企画行事（お茶席体験、能体験）にも積極的に参加し、一緒に楽しんでいます。近いうちにゴミの分別講座を区に実施してもらう予定です。ゴミ問題は近隣トラブルの上位に入るようで、注意を喚起するのが狙いです。

さて、ボランティア自身が企画した独自の行事もあります。図書館の協力を得て実現した韓国語のおはなし会、学習者の故郷にまつわる話を紹介するスピーチ、光が丘公園の野外アート作品を鑑賞しながらのお花見ウォーク、着物の着付け教室などです。月に1回、自主的な勉強会も開い



宝生流の能楽師に指導を受ける学習者 (撮影:ファンピン)

ています。

現在子どもは対象外ですが、子どもを担当する人が参加してくれば、子どもも受け入れていくつもりです。また、練馬区には17の日本語グループがありますが、横断的な連絡会はまだ生れたばかりです。情報交換をすれば共通の課題解決に有効に機能するだろうと期待しています。

会員団体紹介

Nice to Meet You

北区中央公園文化センター、それが私たち「日本語のなかま」の活動拠点です。緑の公園の中にあるレトロな建物の教室で、毎週水曜日と金曜日に活動しています。20年前にこの活動がスタートして以来、ずっと同じ時間と場所です。この活動時間と場所を変えないのは、出入りの激しい外国の方たちがいつ来ても迷わないようにとの配慮からです。自国に帰って何年かしてまた来ましたという人、仕事が暇になったから久しぶりに遊びに来ましたという人も多くいます。

学習者たちの職業、年齢、性別、国籍はバラエティに富んでいます。日本の会社に勤める中国人、ネットで知り合った日本女性を訪ねてきたというフランス人、日本人と結婚して毎週熱心に学習するメキシコ人女性、ワーキングホリデーで日本に来た韓

nice to meet you

■私たちが知らない日本の社会の一面を、彼らから教えてもらう

日本語のなかま (北区)

枝澤 雅子



国人女性、毎年夏休みは日本に遊びに来るというお金持ちの中国人の小学生も。日本に来た事情は様々です。

そんな彼ら、彼女たちからお国の色々な話を聞けるのは、この活動の楽しいところです。が、外国の情報を教えてもらうだけではありません。私たちが知らない日本の社会の一面を、彼らから教えてもらうことがずいぶんとあります。日本で働いている人たち

は様々な職業に就いています。IT企業や証券会社の社員もいれば、スーパーの惣菜を調理する人や、ホテルの清掃をしている人もいます。そして、その職場でおきた事や仕事の内容を色々話してくれます。へえ、そうなんだと驚くこともしばしばです。

去年の震災後は、帰国する人も多く学習者がずいぶん減り、私たちが気持ち落ち込みました。そんな時、日本に残った中国の男性から、「日本は大丈夫、私は日本を信じています。」と言われました。この言葉はその時の私をどれだけ元気づけたでしょう。こんな言葉を聞けるなんて、日本語ボランティアってホント素晴らしい体験の連続です。

学習者の声

中学生教室での勉強

姜 程文 ジャン チャウ エン / 中国
町田にほんごスクールネット (町田市)

うので一生けんめい勉強しました。

3学期になって都立高校を受験し、合格することができました。ものすごくうれしかったです。

高校時代はやっぱり日本語がよくわからなくて友だちはあまりいませんでしたが、学校の成績は学年で10位前後でした。現在高校3年生ですが、指定校推薦で大学へ進学する予定です。中国と日本とのかけ橋になれるよう大学でもがんばるつもりです。



ジャンさんと丸山会長

私は中学校3年で日本に来ました。最初は日本語が全然わからなくて困りました。学校には日本語の先生が1週間に2回来て、日本語を教えてくださいました。はじめのうちは友だちができなくてさびしかったです。土曜日に「中学生教室」に来て勉強するようになりました。だんだん日本語が分かるようになり、2学期の修学旅行で、ようやく友だちと会話ができるようになりました。

日本語は学校の友だちや「中学生教室」でだんだんわかるようになりましたが、学校の授業はむずかしくてよく分かりませんでした。

国語や数学や英語は「中学生教室」の先生たちにも教えてもらい、家で毎日2時間くらい勉強しました。数学と英語は中国で勉強していたのであまり困りませんでしたが、日本語(国語)はたいへんでした。日本語がわからないと数学と英語もわからなくなってしまう

ボランティアの声

町田にほんごスクールネットと中学生教室

会長 丸山昌吾 町田にほんごスクールネット (町田市)

町田市では、十数年前から、転入学してきた外国籍の子どもや日本人の帰国子女の小・中学生に対して、校長(学校)が必要とした時には、教育委員会を通してボランティア(町田にほんごスクールネット)によって、60時間を限度に日本語指導が行われている。

中学校に転入してきた生徒には、半年~3年後に高校入試という大きな壁が立ちほだかっている。中学生を指導しているスクールネットの会員からも中学校を卒業した後の進路についての不安があがっていた。60時間では、ひらがなは読めても授業の内容を理解することはほぼ不可能である。

5年前、「卒業までに教科書を読めるくらいにはしたい」と、9月からスクールネットの会員や他の日本語の支援をしている組織の人に声をかけ、土曜日の午後の2時間を活動時間として「日本語を母語としない中学生のための日本語教室」をスタートさせた。

何の準備も、資料もなく、場所も市民の国際交流の場である「情報コーナー」の片隅で始めた「中学生のための日本語教室」だったが、最近では学習の場も確保できるようにな

り、支援者(スクールネットの会員)が約20人、学習者も10~15人と安定してきた。

学習者は、スクールネットの会員が指導していた生徒や現在指導している生徒、来日して数年経っているが授業内容が十分理解できていない生徒などいろいろいる。学習内容も日本語の基礎を学習する生徒、国語・数学・英語などの教科書を使って語句の意味や内容について学習している生徒、3年生で問題練習をしている生徒など個々である。学習は1対1で行っているが、学習内容によっては交代をしながら支援をし、教室全体が一体になって和気あいあいと、楽しい2時間を過ごしている。

(現在は名称を「町田にほんごスクールネット 中学生教室」と変更している)



学習風景

●第2回運営委員会が開かれました

11月9日(金)TVACロビーにメンバー10名が出席

■通常活動報告

(第1回運営委員会(7/11)以降)

①情報の収集・発信

- ・ニュースレター:No.79発行とNo.80発行予定(12/14)
- ・ホームページ:ボランティア日本語教室ガイド掲載団体の追加

②出前講習会

新宿区未来創造財団、国立市公民館、小平日本語ボランティアの会、フィリピン大使館

③会計

会費納入状況とその他の入金

件数は増えていない。区市の教室パンフレットで紹介されている。

■Project:「わかる日本語」研究会

① 研究会報告の冊子を作成・印刷・配布

② 「わかる日本語」に関する冊子・Network News内容についてのアンケート調査報告
アンケート結果についての意見交換から

- ・「行政・自治体、公共機関等の情報をより多くの日本語を母語としない人にボランティアはどのように伝えるか」を目的にスタートした。
- ・受け手の対象がはっきりしないと適切なリライトが出来ない。
- ・情報発信者への要望として「ボランティアは外国人に対してこれ位のレベルにリライトされた文章で発信して下さい」を提案する。
- ・リライト文を実際に活動で使用した結果が大切、フィードバックが必要です。
- ・レッスンに使いたくなる内容は何か。「ゴミ」と「地震・災害」だけでなく、日常生活での事項も取り上げる。
- ・発信者側、受信者側に「わかる日本語・やさしい日本語」の必要性を理解して貰うことが普及の第一歩です。

■外部関係

東京都、国際交流・協力TOKYO連絡会、新宿区等の動き

●国際化市民フォーラムin TOKYOが開催されます

- ・日時/2013年2月23日(土)
午前(10:00~12:30)
午後(13:30~16:00)
- ・場所/東京ウイメンズプラザ
- ・第1分科会/国際協力関係(テーマ未定)
- ・第2分科会/やさしい日本語「わかる日本語」による情報提供~新たな取り組みを紹介
庵功雄先生、NHK Web easy担当者、都内区自治体担当者
- ・第3分科会/行ってみよう防災訓練、進めよ

う地域の取り組み」

- ・第4分科会/「わかる日本語~ワークショップ」~外国人にとって、「わかる日本語」は本当に分かりやすいか?
- TNVNで取り組んでいる「わかる日本語」についての報告とワークショップです。
- ・国連講演会と音楽の会(13:30~16:30)
*詳細は東京都国際交流委員会のホームページに掲載されます。

column

祝 八十号

おめでとうございます。

年4回発行をして、二十年です。その間には何度か危機があった様に思います。こんなことが言えるのは、私もTNVNのお手伝いをはじめて、足かけ二十年になったからです。その危機を知っている人は、今のスタッフの三人くらいでしょうか。さまざまの方の力を借りて、困難をのりこえ、この長寿があります。力を貸して下さいの方々に感謝しましょう。これからもずっと号を重ねて欲しいと切に念じています。

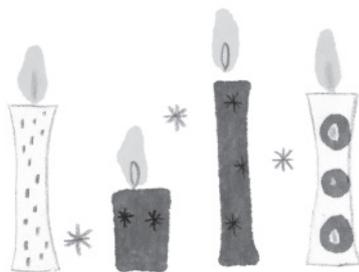
祝、八十号・八十歳。実は私は今年八十歳です。何かの縁でしょうか、傘寿です。

日本語ボランティアを始めて二十年、色々な経験をさせてもらい、人生楽しく、老後は花ざかりです。この知恵袋は、きつと役立てなければ

ばと考え、今少し頑張るつもりです。

私を必要とする人々が目前にいます。TNVNの行方も見たいと思っています。

多文化共生の一端を担っている自負もあり、TNVNと共に歩きます。(R.O.)



TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日

- 第1、第3 金曜日/午後2時~4時
- 第2、第4 金曜日/午後2時~6時
- 第5 金曜日/休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線-出口 B2b) 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

● TEL : 03-3235-1171

(呼出: 金曜日活動時間帯のみ)

● FAX : 03-3235-0050

● E-mail : webadmin@tnvn.jp

● URL : http://www.tnvn.jp/

● 郵便局払込

口座番号 : 00100-1-719259

加入者名 : 東京日本語ボランティア・ネットワーク

● 会員数 (2012年11月9日現在)

正会員 : 84団体、団体協力会員 : 2団体
個人協力会員 : 20名、賛助会員 : 4団体

● 編集 / 大木千冬、岡田美奈子、小川伶子、梶村勝利、床呂英一、林川玲子、山本英子

● レイアウト / 鶴田 環恵